

平成30年度 青少年交流事業ノースバンクーバー（派遣）

報 告 書

公益財団法人千葉市国際交流協会

目次

1. 派遣概要	3
2. 滞在日程	3
3. 研究レポート	5
(1) カナダの食文化 小池 日向子	
(2) ノースバンクーバー市民のスポーツとの関わり方 田嶋 鈴太郎	
(3) 高等教育における日本とカナダの違い 横地 夏海	
(4) 日本とカナダの女子高校生の日常における違い 松藤 真子	
(5) グローバル化に伴う対策 小嶋 悠太	
(6) カナダの幼児環境について 小野 沙織 (引率者)	
4. 滞后感想文 (日本語/English)	26
(1) ノースバンクーバーでの派遣を通して/Through the 2 weeks 小池 日向子 Hinako Koike	
(2) カナダ滞在の感想/North Vancouver Trip 田嶋 鈴太郎 Rintaro Tajima	
(3) 真の国際人/A genuine cosmopolitan 横地 夏海 Natsumi Yokochi	
(4) 自立への道/The road to independence 松藤 真子 Mako Matsufuji	
(5) 優しさに触れた日々/The day when I felt the growth 小嶋 悠太 Yuta Kojima	
(6) 引率者としての姉妹都市/Staying in a sister city as Chaperone 小野 沙織 (引率者) Saori Ono (Chaperon)	
5. 記録写真 (思い出の写真)	41

1. 派遣概要

- (1) 派遣都市 カナダ・ブリティッシュコロンビア州ノースバンクーバー市
(2) 派遣期間 平成30年8月6日(月)～21日(火)
(3) 派遣者 高校生5人、引率者1人
(4) 滞在形態 一般家庭にホームステイ

2. 滞在日程

日付	曜日	内容
8/6 (第1日目)	月	出発・到着 16:30(日本時間) 成田国際第2ターミナルより出国 11:00(現地時間) バンクーバー国際空港到着 PM: ウェルカムパーティー 各ホストファミリー宅へ
8/7 (第2日目)	火	Stanley Park PM: バンクーバー水族館見学
8/8 (第3日目)	水	Painting AM: MAB Art Studio にて
8/9 (第4日目)	木	市長表敬訪問、昼食会 AM: TAP & BARREL SHIPYARDS にて昼食会
8/10 (第5日目)	金	AM: Sea to Sky Gondola PM: ナイトマーケット 見学
8/11 (第6日目)	土	自主研修 (各自ホストファミリーと過ごす)
8/12 (第7日目)	日	Stanley Park・Bicycle Tour
8/13 (第8日目)	月	ライオンズデイ AM: Capilano Suspension Bridge 見学 寿司レストランで昼食 PM: Fly Over Canada 体験 Vancouver Lookout 見学 Gas Town 見学 イタリア料理レストランで夕食
8/14 (第9日目)	火	Grouse Mountain 見学
8/15 (第10日目)	水	ウィスラー旅行1日目 AM: ブリタニア鉱山博物館 見学 PM: ウィスラー到着→散策
8/16 (第11日目)	木	ウィスラー旅行2日目 AM: ゴンドラにて山頂へ PM: シーサファリ体験

日付	曜日	内容
8/17 (第12日目)	金	リッチモンド市スティーブストン町見学 AM: ブリタニア・シップヤーズ見学 PM: エクストリーム・エア・パーク見学
8/18 (第13日目)	土	派遣生 自主研修 (各自ホストファミリーと過ごす) 引率者 17時より過去の引率者との夕食会
8/19 (第14日目)	日	PM17:00 Farewell Party
8/20 (第15日目)	月	ノースバンクーバー出発 14:25(現地時間) 出国
8/21 (第16日目)	火	成田到着 16:30(日本時間) 成田空港

3. 研究レポート

カナダの食文化

小池 日向子

研究概要

カナダの食文化について調べる。とりわけカナダの多国籍な食文化に焦点をあてる。また、日本人とカナダ人の、食に対する好みや味覚の違いについて研究する。

動機

もともと食に関して興味があり、学校でもその研究をしていた。海外に実際に赴いて研究を出来る機会はめったになく、とても貴重であるから、是非今回の派遣でも食について学びたいと思った。また、私たちは東京オリンピックを二年後に控えている。日本にとって、多国の文化が混合しているカナダの文化は、ある意味学ぶべき対象であると私は考えている。日本が、さらに外に開いた、外国人の住みやすい国になるためにはどうすれば良いか。食文化という視点から考えようと思った。

① カナダでの食事

～朝ごはん～

朝は基本的にパンかシリアルを食べた。パンは、クロワッサン、イングリッシュマフィン、麦のパンなど多くの種類があった。ジャムや、ピーナッツバター、フルーツ、ヨーグルトと食べた。おかずは、ベーコンや、スクランブルエッグなどだった。飲みものは、オレンジジュースや牛乳。牛乳は5リットルもあって驚いた。朝ごはんはささっと作り、立ったまま食べた。



遅く起きた日にはブランチを作り、外でゆったり食べた。ワッフルやフレンチトーストなどを焼き、フルーツやサーモン、チーズ、ポーチドエッグ、トマトなどの具材と合わせて食べた。写真は、カナダ2日目のブランチ。カナダではフルーツをよく食べていた。特に、ストロベリー、ブルーベリー、クランベリー、ラズベリーなど。朝に野菜を食べる習慣はなかった。おかずを炒めるときはバターを豪快に使って

いて驚いた。ヨーグルトは日本のものより酸味が弱く濃厚だった。

～昼ごはん～

外食やランチが多かったため、昼ごはんを家庭で食べることはほとんどなかった。外食の時は、イギリス料理のフィッシュ&チップスや、餃子、ハンバーガーなど様々な物を食べた。写真真ん中はカナディアンフードのプーチン。フライドポテトにチーズとグレイビーソースがかかっている。外食の時は、一人前を一人で食べきれないので、三人でシェアして食べたりした。



～夜ごはん～

家で食べる時は庭のテラスのような場所で食べた。メニューはパン、メイン、サラダという構成だった。ラザニアやチキンがメインディッシュで出てきた。庭のテラスには、BBQ用のグリルがあり、そこでチキンを焼いてくれた。主食はいつもパンだった。サラダは、豆やジャガイモ、フルーツを使ったものが多かった。一度パクチーを使ったサラダが出てきた。

料理はいつも大皿に盛ってあり、自分の皿に取り分けて食べるようになっている。写真右下はある日の夜ごはん。メニューはグリルチキン、ポテトサラダ、フランスパン、野菜(きゅうり、にんじん)、スイカとミントのサラダ。

滞在中に作ってくれた料理はどれもおいしかった。味が独特だと感じたのはパクチーだけだった。他のものは全て美味しくいただいた。豆をいろいろな場面で食べていた。サラダに入っていたりや、夜ご飯のメインに入っていたりした。



② カナダの独自の食とは？

日本には和食という日本独自の食文化がある。一方カナダには日本の和食に当たるものがない。私のホストシスターは、「カナディアンフードといえばハンバーガーなどで、日本のような魅力的なものはあまりないの。」と言った。日本人が日本食に感じる誇り

を、カナダ人はカナディアンフード(ハンバーガーなど)に感じていないようだった。しかしカナダには、多くの国のレストランがあった。街中をドライブすれば、すし屋を必ず見かけた。韓国料理や中華料理、ヨーロッパやアフリカの料理屋もあった。多国籍料理屋をその国の人が営んでいた。

カナダ人学生とライオンズクラブのメンバーに、多国の料理屋があることについてどう考えるかをきいてみた。すると、『さまざまな食べ物に触れられてうれしい』や『昔と違っていてうれしい』などと前向きな意見ばかりだった。



写真左は日本人の方が営むすし屋に連れて行ってもらった時の物。高級感のあるお店だった。日本人が作っていたため完全に日本のお寿司だった。日本に帰ってきたような不思議な感覚になった。とてもおいしかった。

ある夜にはナイトマーケットに訪れた。そこでは10か国以上の屋台が出ていた。日本人の方もいて、照り焼き味のタコス売っていた。



また、夕食にホストマザーがメキシコ料理をふるまってくれた。トルティーヤとチーズを使ったエンチラーダスという料理だ。(写真左) 他国の料理が普段の食事に出てくることに驚いた。

以上のことから、多くのカナダ人は、外国の料理を日常的なものとして受け入れ、楽しんでいるということが分かった。“国境のない食生活”を送っているなど思った。

③ オレオ対決！！ 日本 VS カナダ

カナダで売られているオレオと日本のものは味が違うと聞いた。そこで、カナダの人に食べ比べてもらった。日本人の好みに合わせて作られた味をカナダ人はどのように感じるのかを調べた。合計7人のカナダ人に、好きなオレオはどちらか、それはなぜかを聞いてみた。

<結果>

カナダ派・・・4人

理由・・・カナダのオレオは後味がしょっぱい。日本のものは甘すぎる。苦いクッキーと甘いクリームが合っていておいしい。カナダのオレオの方がサクサクしている。味が濃くておいしい。

日本派・・・3人

理由・・・甘すぎない。砂糖が少ない。チョコレートがよりチョコレート味で良い。

<考察>

カナダのオレオを好きな人が多かった。しかし、日本のオレオを好きな人もいて驚いた。確かにカナダの方が濃い味だが、日本人でもカナダのオレオを好きな人は多いと思う。

私はカナダのオレオは、クリームのがさが強く、クッキーは硬くて、ココア味が濃いと感じた。国が違えば、味の感じ方も違うと思う。好みも違うと思う。しかしオレオなどの世界中で親しまれているお菓子は、どの国の人もおいしいと感じるのではないかと思った。

よって、“勝敗なし！！！！！！！”

④ まとめ

2週間の滞在を通して、カナダ人は多国籍な食文化を誇りに思い、また日常的に様々な国の料理を食べていることが分かった。けっして多国籍であることを自覚していないわけではなかった。そのことは、食文化について質問をしてみると分かった。

食において日本と最も違う点は、その国の人が作る多国籍料理が多いということだ。ノースバンクーバーにいれば本場の味がいつでも食べられる。ノースバンクーバーはあるサイトでは外国人が住みやすい街1位に選ばれている。その理由の一つがこのことなのではないかと思った。いつでも日本を味わえる。私もカナダでお寿司を食べたら日本食ロスから抜け出せた。

なによりこの2週間を通してカナダの食生活を体験できたことが自分の財産になると感じた。日本では決してできない体験を出来た。今後の人生の役に立てられるように、これからも食に関しての興味を大切にしていきたい

ノースバンクーバー市民のスポーツとの関わり方

田嶋 鈴太郎

研究テーマ

「ノースバンクーバー市民のスポーツとの関わり方」

今回の渡航に際してノースバンクーバー市について調べたところ、高層ビルが立ち並ぶ都会的な雰囲気がありながら、少し離れれば自然が広がっている事を知り、非常に千葉市に似ていると思いました。

千葉市と似た環境で生活する人たちがどのような暮らしをしているか、特にスポーツに関わる事を通して生活や文化の違いを現地で確かめたいと思い、研究テーマにしました。

研究報告

ノースバンクーバー市内にあるスポーツ施設や公共の公園・広場を見学しました。

まず気づいた点は、ノースバンクーバー市内の至るところに様々な種類のスポーツ施設がある点です。野球やサッカー、テニスなど我々日本人にとっても馴染みのあるスポーツの施設だけではなく、アイスホッケー場やモトクロスバイクの練習場など初めてみる施設でありとても興味深かったです。

1) 野球場

2) ミニサッカー場



私のホストファミリーの家は住宅街にありましたが、徒歩で行ける距離に、野球場・サッカー場・バスケットボールコートがあり、子供達が幼いころから身近にいろいろなスポーツを楽しむ事ができる環境が整っていました。

これらの施設は誰でも自由に使用できるようになっており、知らない子供たち同士でも一緒にスポーツをすることも多いと言っていました。

実際、滞在中何度か子供たちが野球やサッカーを楽しんでいる様子を見かけ、ホストシスターの弟もこの場所で友達とサッカーをしたりバスケットボールなどをして日頃から体を動かし楽しんでいるそうです。

3) サイクリングロード



4) モトクロスバイク練習場



意外だった点としては、カナダ人は自転車を移動手段としてではなく娯楽やスポーツとして利用しているという点です。日本では生活の移動手段として使用されることが多い自転車ですが、カナダではあまり移動手段として自転車を使用することは多くないと、その事でもとても驚きました。多くは自動車やバスを利用していました

スポーツとして楽しむモトクロスバイクの練習場やサイクリングコースなども多く存在しており、そのそばには自転車の貸し出しをする店などもあり多くの人が気軽に利用できる環境でした。

5) ビーチ



6) ハイキングコース



街のいたるところに、ウォーキングやハイキングに適した場所(自然)がありました。

ホストファミリーの家の近くのビーチではバレーボールや海水浴などスポーツを楽しんでいる人や朝や夕方になると散歩をしている人もいました。そのビーチはゴミなども一切落ちておらずとても綺麗で市民にとって憩いの場となっていました。

また、自然を感じながら散策するハイキングコースはとても気持ちの良いものでした。早朝にもかかわらず多くの人とそのハイキングを楽しんでいました。このようなハイキングコースはたくさん存在しており、私のホストファミリーの家から歩いて5分以内の場所にもありました。

7) 公園・広場



市内の公園は安全面がしっかりしていると感じました。遊具の下には木製チップが敷き詰められ、けがの恐れが少ないプラスチック製の遊具が多く使われていました。

まとめ

以下、今回の研究報告のまとめとします。(千葉市とノースバンクーバー市を比較)

- ・主に住宅街で構成される市内にも、スポーツ施設や公園が適度に点在していた。
⇒千葉市では住宅街に公園やスポーツができる施設が多くない為、市民が身近にスポーツを楽しむ機会が多くないように感じました。ビルや商業施設よりも、少し広めの土地が出来れば専用の小さいグラウンドなどを作ってはどうかと思いました。
- ・住民一人あたりに対してのスポーツ施設や公園の数が多い。
⇒人口の多い千葉市では、市民がスポーツを楽しめる施設や公園に限られる為、市内の学校の一般開放や高速道路や鉄道の高架下などの有効活用を検討してみてもどうかと思いました。
- ・予約をせずに自由に使用できるスポーツ施設が多かった。
⇒千葉市のほうが施設は立派だが手間のかかる予約をしなければいけないところが多く、もっと簡単・身近に利用できると良いと思いました。
- ・各種スポーツの専用グラウンドが整っている。
- ・整備された施設だけでなく、健康増進の為にビーチや山など自然も楽しんでいた。

感想

ノースバンクーバー市には市民が体を動かせる場所や環境が多くあり、普段からスポーツと多く関わり、生活を楽しんでいる事がわかりました。朝のハイキングコースでは知らない人から挨拶や話しかけられたりしました。日本ではなかった経験であり、日頃から身近でスポーツを楽しんでいるカナダ人の心のゆとりとフレンドリーさを感じる良い経験でした。日々の運動は心にゆとりを与え、ストレス解消にも良い事だと思いました。

高等教育における日本とカナダの違い

横地 夏海

テーマ選定理由

17歳のCanadianのInstagramに、中米ドミニカでの写真があり、日本であまり知名度が高くないドミニカを訪れていることに興味を持ったため詳しく聞いてみたところ、高校の授業の一環で、“社会公平”を学ぶために訪問した、と説明された。日本は体育以外座学、強いて言えば校外学習で学校から出ることはあっても、飛行機で外国に行くなんて…それよりもまず、“社会公平”の授業とは何！？と、日本とカナダの高校の違いにとっても驚いた。そこで、ホストシスター全員が楽しく通っているという魅力にあふれたカナダの高校について調査しようと思った。

初めに、カナダでは州、学校毎に教育課程が定められているので、統一の必須科目がないことに加え、学年の教え方もそれぞれである。たとえば、小学1年=1st Grade、私のホストシスターのEmmaは中学2年=8th Grade、高校3年=12th Gradeであり、日本でいう小、中、高が12年間ということは同じだが、elementary schoolの次がjunior high school, high schoolか中高一貫のsecondary schoolになるかは決まっていない。また、すべての学校が小、中、高=6,3,3年間でもない。

これはよく知られたことだが、9月から新学年である。日本より半年遅いため、元派遣生で9月からカナダの大学に通う、という先輩は、高校を卒業した後、半年自由な時間が生まれたため、夏休みはカナダで私たちと行動を共にしてくださった。

続いて、日本とカナダの比較をしていく。

勿論すべての学校、人に当てはまるわけではありませんが、

	日本	カナダ
科目	選択不可	必須科目&選択科目
部活	高校生活の軸 ほとんどの生徒が参加	ない →クラブチーム or 選択科目
生徒の様子 感想	受け身な姿勢 週末、7限疲れ 居眠り	楽しい！ 動画を見るために電気を消さない限りは眠らない

Canadian 必須科目時間割

最低8科目+選択2科目、10科目以上で進級のための単位を修得

しかし、12thになると必須科目は英語1つのみなので、他は全て選択科目が占める。

9～12月

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	英語	進学準備	歴史	英語	進学準備
2	進学準備	歴史	英語	進学準備	歴史
3	歴史	英語	進学準備	歴史	英語
4	作文	作文	作文	作文	作文

1～6月

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	文学	数学	スペイン語	文学	数学
2	数学	スペイン語	文学	数学	スペイン語
3	スペイン語	文学	数学	スペイン語	文学
4	法律	法律	法律	法律	法律

進学準備とは graduation transition というのが英名で、時によってさまざまなことをする。保健やコミュニケーションスキルを身につけたり、将来設計をしたりするらしい。毎日同じ4科目が繰り返されることはとても驚いた。

この他の時間は選択科目が占める。

対する私の学校の時間割（年共通、2年）

1	数学	化学	工芸	古典*	物理
2	C英	物理	工芸	W英	N英
3	日本史*	数学	保健	体育	数学
4	体育	現代文	数学	数学	世界史
5	古典*	世界史	日本史*	家庭科	化学
6	物理	N英	C英	家庭科	現代文
7		総合	数学		LHR
	部活			部活	
		部活			部活

とにかくカナダに比べて必修科目数が多い

英語が3種あると数えると、全部で15科目ある

カナダの選択科目

リーダーシップ	ギター
動画制作（導入編）	合唱
デジタルメディア	バレーボール
テクノロジー（導入編）	バスケットボール
エンジニアリング（導入編）	サッカー
カフェテリア・レストラン	野球
フード・スタディー	アイスホッケー
ベイキング	スポーツリーダーシップ
ロボット工学	音楽・演劇
自動車整備	ジャズバンド etc.
クラフト	

とてもたくさんある
右側の列は日本の部活動のよ
うな感じで、カナダでは選択科目が
部活動の代わりをしていること
が分かった。
新しくて人気なのは
“リーダーシップ”

最も驚いたことは、教科書は使いまわしだということだ。

<良い点>

環境に優しい、無駄が少ない
費用がかからない

<悪い点>

書き込み不可、丁寧に扱う必要がある
紛失してはいけない 紛失した場合、**弁償の必要がある！数学...90\$**（一番高い）
長期休みに持ち帰れない（だから見せてもらうことはできなかった）
学年を超えて復習できない

日本では教科によってはほとんど
使わない教科書もあるのが事実な
ので、この点においてはリユース
システムはとても良いと思った。

その他

高校の単位が取れている人は在学中でも大学の講義をとれること。
ホストシスターがそれを利用して日本語を学ぶ予定だと話してうれしかった。
ライオンズクラブのお世話になった George や、引率者であり私のホストマザーの
Tanya も一緒に申し込みをしているらしく、どの世代でも大学に通えることがわかる。

ホストシスターに質問したところ、日本でいう留年、というのはないようだ。
しかし単位をとれないという状況はもちろんあるため、夏休みに補講なるものをするひ
つようがあるようだ。

反対に、成績が良いと授業に空きがある場合、上の学年用の授業を受けられる。
日本のようにクラス単位で同じ授業を受けたり、メンバー全員が同い年なわけではない
ために可能なシステムだと思う。

カナダの時間割の中で、スペイン語と進学準備はオンラインで受講していると、ホストシスターが話していた。

日本では塾でない限りオンライン授業はない。まず、パソコンやタブレットなどの媒体が生徒の数に対して足りないのが、現在の日本では実現が難しいと思う。

最後に、以下はカナダの高校生からの日本の高校の制度に対する感想である。

私が聞いて驚いたことの日本との違いを言うと、同じように驚いていた。

- ・科目数が多い！予習、復習、宿題が大変そうだね。
- ・生徒が毎日のように居眠りするのはいらないね。
- ・夏休みに課題があるの！？私たちはないよ、教科書が手元にないから。

その代わりに、夏休みはキャンプやスポーツなどの人生経験を積むことが週9題のようなものだよ。（私がカナダに夏休みの宿題を持って行ったのに対して。驚いたことに、実際に、滞在中私のホストシスターが勉強している姿は一度も見なかった。家にいる時は絵を描いたり、食事の手伝いをしていたり、本を読んでいるかのいずれかだった。）

考察、まとめ

必修授業数が少ないので**進度に問題はない**のではないかと疑問に思ったが、ないといえる。私が2学期に習う対数の予習をしているのを見て、同い年のホストシスターが、logは英語でlogarithmというのだよと教えてくれたからだ。

習ったばかりだと言っていたので、逆に進度は少し早いくらいである。科目数も少ないためだろう。日本には国語と言っても古典と現代文、歴史にも世界史、日本史とあるため、科目が多いのだと思う。

日本は**広い分野**の教養が得られると考える。私の学校では文理選択のある高3まで、個人の得意不得意、好き嫌いに関わらず全員が同じ科目を学ぶからだ。

それに対してなかには不満を持っている友達もいるが、良く捉えれば将来の選択肢が増え、また社会人になった時、教養の幅を広いことは役に立つと信じているので私は日本の制度も好きである。

カナダは**社会人育成**に優れていると思う。選択科目のジャンルの広さと内容の実践性からそう考える。カナダの高等教育は、教養もちろんだが、すぐに実践できるような科目もある。

豊かな人間性を養ったり、大学受験のための知識を中心に学ぶ日本の高校との大きな違いがよくわかった。違うところが多くて、とても興味深く、楽しかった。

どちらにも良さがあり、甲乙をつけがたいところであるが、私は日本の高校生活に満足しているので今のままで良いなというのが結論である。

日本とカナダの女子高校生の日常における違い

松藤 真子

私は、日本とカナダの女子高校生の違いについてファッションと生活の中での行動や意志の違いの2つに観点をおいて調べた。

1, ファッションについて

日本

〈ブランド〉

WEGO、GU、Honeys、SPINNS

〈柄〉

チェック柄、横ボーダー、ドット、モノトーン

〈靴〉

スニーカー、
スポーツサンダル、
コンフォートサンダル



スポーツサンダル



コンフォートサンダル

- ・ ハイウエストやサッシュベルトなどを取り入れて、脚を長く見せる効果 xcx
- ・ 最近は、サイドにラインの入ったスポーティーパンツにウエストポーチやトートバックを合わせるストリート系のファッションが流行っている



ストリート系ファッション



ドット柄にハイウエストズボン

カナダ

〈ブランド〉

H&M

FOREVER21

simons

ARDEN

〈柄〉

迷彩柄

無地

〈靴〉

ビーチサンダル

スニーカー



ホストシスター達

- ・ショート丈のT-シャツにクラッシュデニム
- ・スポーツ用のレギンスにノースリーブのタンクトップ
- ・露出度の高い服を着る人が多かった。



simons のズボン



ホストシスター達

感じたこと

一番驚いたことは、カナダの人はレギンス一枚で歩くことです。日本では運動をする

ときに、レギンスを履いてその上から動きやすい短パンなどを履きます。けれど、カナダではぴっちりとしたレギンスを1つのボトムスとして履いていました。また、しっかりとした柄のついた服を着ている人も少なく、上下無地のシャツと短パンを履いた、とてもシンプルな格好をしていた。

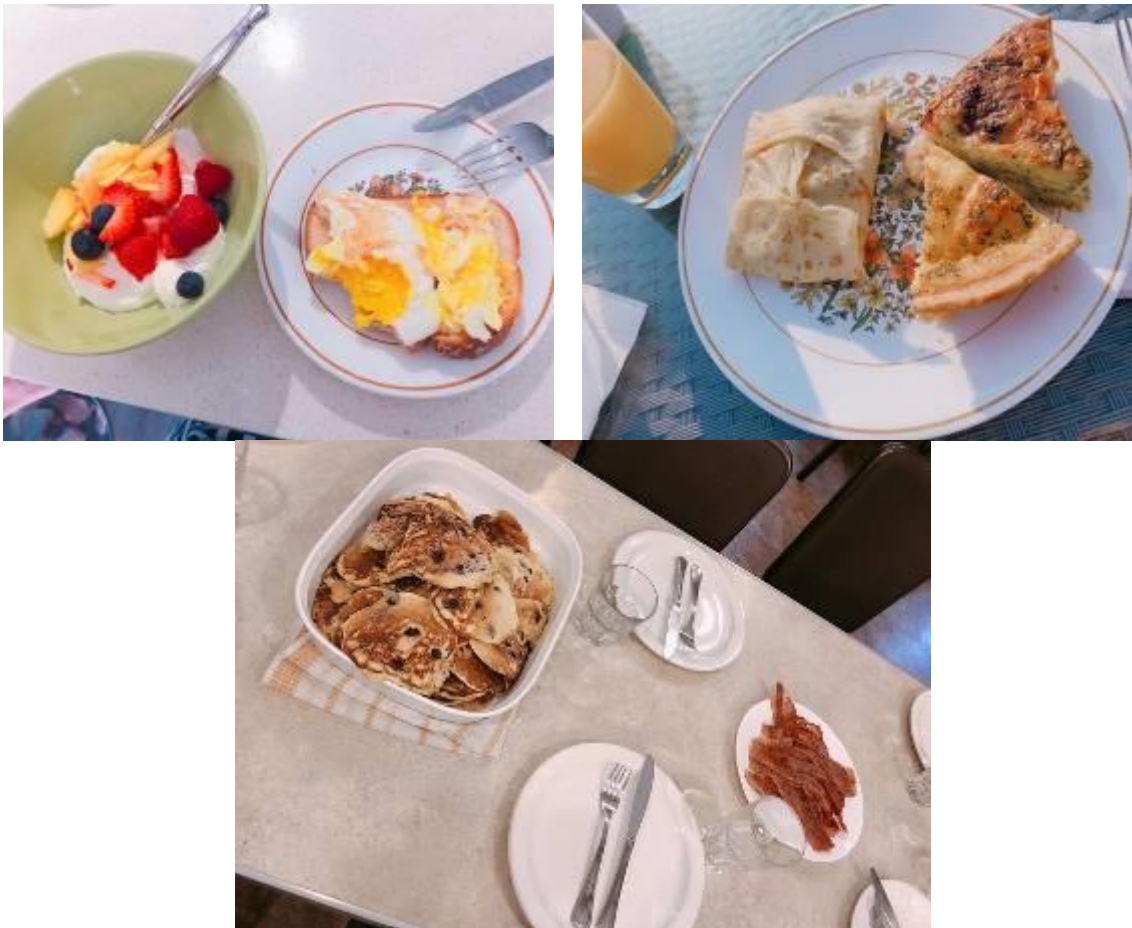
生活の中でどのような意志を持って行動しているのか
日本

- ・将来の夢や目標がはっきりしている人が少ない
- ・周りの意見や行動に合わせることが多い
- ・時事についてしっかりと把握している人が少ない
→だから試験などに時事問題が出る？

カナダ

- ・自炊をできる人が多い
- ・将来の夢や目標をしっかり定めている
- ・色々なことにしっかりとした自分なりの意見や考えを持っている
- ・自分の意思を貫いている
- ・政治や財政などに興味がある

↓私のホストシスターが作ってくれた料理↓



グローバル化に伴う対策

小嶋 悠太

【テーマ選定理由】

グローバル化が進む現代では多くの外国人が来日しており、平成30年8月現在の千葉市の外国人住民数は約2万5千人で、これは千葉市の総人口の2.6%にも及ぶそうです。また、2020年に日本でオリンピックが開催されることもあり、今後より多くの外国人が日本を訪問するようになると予想されています。それ自体は大変喜ばしいことですが、彼らが日本で生活や観光をしていく中で、文化や言語の違いによって生じるストレスを最小限になるようにする方法を考えなければなりません。

そこで、多くの移民が居住していて、なおかつグローバル先進国とも言われるほど多文化民族への支援が充実しているカナダで、日本とはどのような違いがあるのか現地で調査してみたいと思い、このテーマを選定しました。

【日本の不便な点】

日本を訪れたことのあるホームシスターやライオンズクラブの方に、日本で生活する中でどんな時に不便を感じたかを質問してみました。その答えは以下のようになっています。

- ・電車の路線図が複雑すぎて、電車を乗り間違えることがよくある
- ・日本の地図や地図に使われている記号が非常に分かりにくい
- ・レストランのメニュー表示に英語がほとんどなく、店員も英語が話せない人ばかりで

Google 翻訳を介してしか会話が成り立たない。

今回はこれらのことを踏まえて考えていこうと思います。



この質問をした時、多くの方が「日本は非常に住みやすい国なので不便はあまり感じなかったが、強いて言えば・・・」と言ったように答えてくれました。日本は世界的に見ても外国人への配慮がしっかりされている国だそうです。

【日本とカナダとの違い】

◎標識

カナダの標識は視覚で訴えるものが非常に多いです。日本では文字だけのものもよく目にしますが、カナダの標識はほぼ必ず文字だけでなく簡単な絵も付いていました。

ところで皆さん、私がカナダで撮影した右の標識は何を表していると思いますか。

答えは、「危険！」というマークです。危険というよりは完全に感電してしまっているように見えます。しかしながら、「危険」という意味が誰にでもよくわかるユニークな標識だと思います。



ここで日本の標識と比べてみましょう。右の標識が日本の「危険」という意味を表します。この他にも「危険」と、漢字だけで表記されているものもよく目にします。これは私の主観も含んでしまうとは思いますが、この表記では万人が分かりやすいと答えるとは思えません。



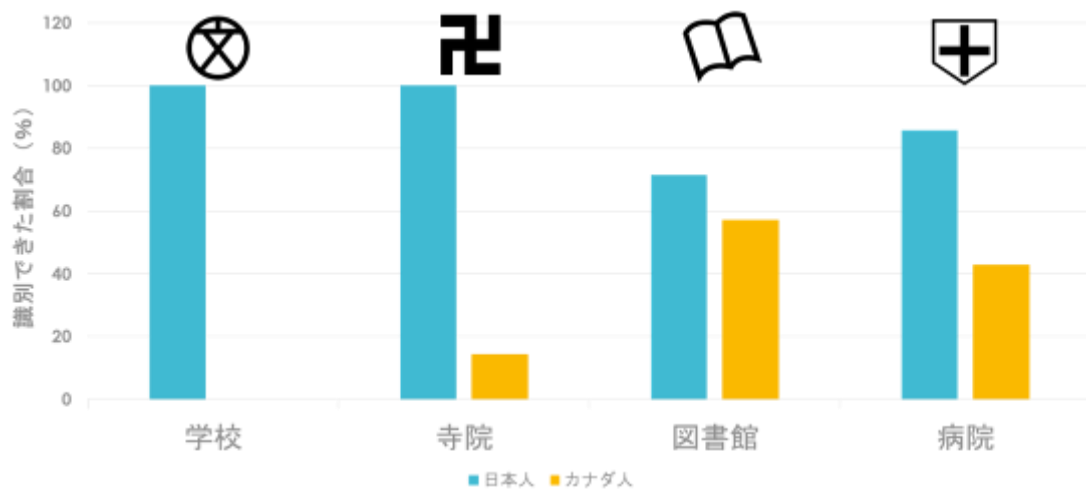
◎地図

地図においては日本とカナダとでは大きな違いがありました。カナダの地図は文字だけですが、日本のものは地図記号を用いることで日本人にとっては非常に分かりやすいものとなっています。

しかし、グローバル化の進む現代では外国人にも簡単に理解できる地図である必要があります。昔からある日本特有の地図記号では、自国との言語や文化の違いなども関与し、彼らは理解することができないでしょう。

そこで、地図記号を認識できるかというアンケートをカナダ人と日本人それぞれ7人に行ってみました。

『地図記号の識別』



青は日本人、黄色はカナダ人で、それぞれの識別できた割合を示しています。

この結果と彼らの答えから、以下のことが分かりました。

- 学校のマークのように日本語を使ったマークは外国人には理解できない
- 寺院のマークはヒトラーのマークと酷似していて、日本の寺院のマークという認識は薄い
- 本などの世界共通のマークはわかりやすい
- 病院のマークは十字が使われているため、十字架のある教会と区別がつきにくい

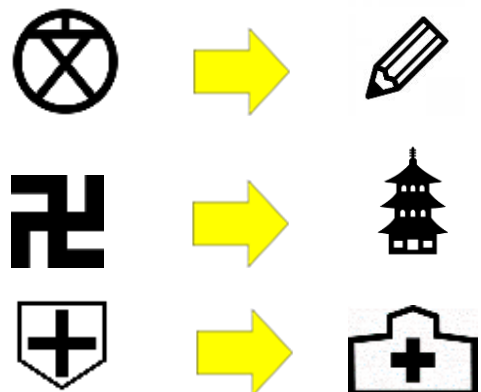
◆地図記号の改定案

ここで、外国人にも地図記号の改定案の例を紹介します。

学校は勉強する所という意味で鉛筆またはペンのマークに変更します。

寺院は古風の木造建築のイメージが強いので、そのマークに変更します。

病院は十字を短くし、建物の中に入れることで病院であることを強調しています。



【考察】

グローバル化の進む現代では多くの外国人が来日します。彼らが日本でストレスなく快適に過ごすためには言語や文化の差を最小限にしなければなりません。そこで、レストランのメニューの表記に英語を加えたり、外国人にもわかりやすい地図や電車の路線図などを新たに作成したりといった工夫が大切なのではないかと思えます

カナダの幼児環境について

引率者 小野 沙織

【テーマ選定理由】

千葉市の保育施設での様子を普段から見ているので、日本の子ども達との生活の違いについて知りたいと思った。日本では社会の変化と共に、少子化や晩婚化が進み、さらに女性の社会進出により、待機児童の問題も深刻になっている。千葉市も一時は待機児童が0になり、ニュースでも取り上げられたが、子どもを取り巻く様々な問題に対応する必要があったり、質の高い保育を求めまだまだ課題が残っている。保育所で過ごす子育て支援を担う者として、カナダの乳幼児の生活に興味があったこと、また違いを知ることによって子ども達にとってよい環境を改めて考え、生かしていきたくらいこのテーマを選定した。

【カナダのデイケア】

1) MAMALINA'S MONTESSORI

モンテッソーリ教育を実践しているデイケアである。月曜日から金曜日、午前8時から午後5時まで、2歳半から6歳までの子を預かっている。午前中のクラス、午後のクラス、夕方のクラスと3時間程度ずつに分かれており、中には1日を通して生活している子もおり、週に通う日数なども親のニーズに合わせて利用できる仕組みとなっている。



訪問日の1日の流れ

随時登所

9:30 絵画

10:10 ブレイクタイム

11:00 近くの公園へ

12:00 昼食

この日の主活動は絵画。

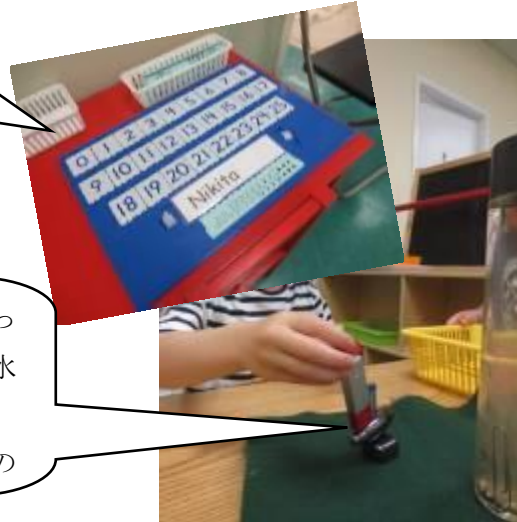
小さい子どもには、ハンドペインティングで大きな紙に思いきり絵の具の感触を楽しむように、年齢の高い子どもには自分用の紙に筆の使い方を知らせながら自由に遊ばせ





すぐに手に取れるよう、様々な玩具が用意されている。子ども達は興味のあるものを手に取り、その場で、また床でやって遊び始める子もいるが、その都度声を掛けたり、机に誘導したりして遊びに集中できる

数字ごとにバラバラになっていたパーツをパズルのようにつづつ当てはめる。
完成し名前をつけると「できた」



遊びの中で科学に触れ、興味をもって磁石で遊んでいた。手前にある水には中にクリップ等が入っており、沈んでいるそれを外側からの磁石の

2) My Little School

こちらモンテッソーリ教育を実践しているデイケアで、月曜日から金曜日、午前7時から午後6時まで、1歳から12歳までの子の預かりを行なっている。対比は1:3の予定だが、子どもの数が多く現在は1:4と超えて保育をしている。



部屋は3クラスあり、それぞれの年齢に合わせた玩具が置いてある。園庭もそれぞれ





紙だけでなく、石や実など様々な素材にペイントして楽しんでいるとのことであった。小さいクラスは庭のコンクリートにチョークで絵を描いていた。

どちらの施設も子ども達の興味に合わせ、遊びを展開させていた。絵本コーナーやまごとコーナー、構造遊びコーナーや制作遊びコーナーなどが設定されていた。子ども達の主体性を大事にし、主活動では様子をみながら興味を持てるような言葉掛けを行っていた。また、遊びの中でいろいろな素材に触れられるよう玩具が用意されていた。

【街で見られた遊具】

滞在中に訪れた先々にて様々な遊具を目にした。週末は特に賑わっているスタンレーパークにはいくつも遊具が置かれている場所があった。ピクニックを楽しむ人、サイクリングの休憩で使う人、また食事施設の近くにもこのような場が設置されていた。



↑ブランコやすべり台、大型遊具など様々な種類の遊具だけでなく、水遊びができるような広場もあった。大人も楽しめるような、高いブランコなども見かけた。



石や木など、自然の素材のものが遊具に取り入れられている場所も多く見られた。



ハイキング先など、自然の中にもたくさんの公園があり、家族の憩いの場となっていた。

【結論】

今回、カナダ人の5人の高校生にも幼少期について話を聞くことができた。戸外で遊ぶことが多く、木々に囲まれた公園や森、海など自然の中で動植物に触れたり、家の中庭で友達と一緒に遊んだりしていたという。休日には家族でハイキングやキャンプに行ったり、ビーチで泳いだり、外に出掛けることが多かった。これらは、自然に囲まれたノースバンクーバーならではの過ごし方だなと感じた。何よりも、子どもから大人まで楽しめるアクティビティのできる場所が多くあり、家族との時間を大切にしているという意見が多く聞かれた。

“「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない（レイチェル・カーソン）”という言葉のように、幼少期の自然体験は、子どもの成長に大きな影響を与える。五感を使って好奇心や探求心を育む体験を通し、感受性や人間性を育て、その子どもの可能性を伸ばすことに繋がる、という意味では、カナダ人の高校生達が過ごしてきた幼少期や、カナダで目にした環境は参考にすべき点が多くあるのではないかと。

千葉市もノースバンクーバー市ほどではないが、身近に自然を感じられる場所がある。子ども達と一緒に自然に触れ、彼らの驚きや喜び、発見に共感していくことが重要である。日本の社会変化に伴い、自然で過ごす時間が減ってきている現代だからこそ、保育士として子ども達にできることを日々探し、発信していきたいと思う。

4. 滞在感想文

ノースバンクーバーでの派遣を通して

小池 日向子

今回、ノースバンクーバーに初めて滞在してみて様々な事を学び、感じ、考えました。日本にいたら自分が体験できなかったであろうことを出来ました。振り返れば、大きな価値のある2週間だったなと心から思います。まず今の自分の英語の力を確認できてよかったです。というのも以前から英語をしゃべることに憧れがあったのです。日本でネイティブの方々と話す機会はあまりありません。ホームステイということもあり、今回、多くのカナダ人と会話できました。自分がどれくらいの英語力(日常会話において)であるのか分かりました。すると自然と日本で学ぶべきことが見えてきたのです。英語の勉強の道筋が見え、やる気も湧いてきました。正直に言うと、自分の英語力は全く足りていませんでした。だからこそこれから頑張ろうと思えました。自分の考えに影響を及ぼした出来事は他にもあります。カナダに暮らす人々と接していて、視野が広がったと思います。

カナダには17歳にして完全菜食主義を貫き通している高校生がいました。また、2年前にこの事業に参加し、今はカナダに住んでいる先輩にも出会いました。そのようなすべてが私には新鮮でした。私は学校で他人と自分を比べて落ち込んだり、ふさぎ込んだりすることがあります。それは劣等感からくるものです。一方カナダの人は、自分をもって個性を大切にしているように思えました。世界にはさまざまな人がいて、全員違ってあたりまえだと分かりました。このようなことを思うのは簡単ですが、実行するのはなかなか大変です。今回の経験をきっかけに実行できるようになりたいと思いました。

滞在中の2週間は美味しいものを食べたり、観光地に訪れたり、家でゆったりとくつろいだりと本当に楽しかったです。カナダでは、日本のように夏休みに部活があったり夏期講習があったりしません。長い休みを思い思い楽しむそうです。私のホストシスターはアクティブで自然が好きな人でした。だから予定のない時間にはハイキングをしたり、海に行ったりしました。もともと組まれている予定でも山に行くことが多かったのでたくさん運動をする2週間になりました。カナダの雄大な自然はすごかったです。ノースバンクーバーは山にあるので、見渡せば山、海、雲一つない空といった感じです。千葉とはスケールの違う自然でした。カナダの自然の中で行うアクティビティーは最高で、住みたいと思うことが多々ありました。カナダの生活をしていく中で、自分の派遣前の生活の見直しをしました。そして2週間の滞在を経て変わることが出来たのです。

派遣前は寝る前に必ず携帯を触っていました。そのため睡眠時間が短くなり、昼間に居眠り・・・ということがしばしばありました。

しかしカナダでは日中活発に活動するので、10 時ごろには自然と眠くなりました。携帯を触る回数が減り、その代り日記を書いたりしました。このような生活リズムで2週間過ごしたことで、日本に帰ってきてからも早く寝るようになったのです。日本で生活リズムを変えようとする根気と時間を要します。カナダで生活リズムを是正できたことは思いもよらぬ成果でした。

カナダに在中で日本の良い部分を再確認できたこともよかったです。例えば、お風呂です。カナダにはお風呂がなかったので、とても恋しくなりました。電車もそうです。ノースバンクーバーには、電車がなく、移動はほとんど家庭の車でした。千葉には、バス、モノレール、電車、と交通機関があります。千葉は便利だなと思いました。また、物価に関しては、ノースバンクーバーは裕福な市民が多いため高かったです。外食をするととなると、税込みで 1500 円程かかります。日本のファストフードの安さと美味しさは誇るべきものだと思います。

2 週間の滞在を経て、物事の新しい考え方を知り、自分の事を見つめる事が出来ました。また、カナダに大切な友達が出来ました。数えきれない思い出を作る事が出来ました。千葉市とノースバンクーバーの交流の中の一人になれたことを誇りに感じます。

最後になりますが、援助していただいたライオンズクラブの皆様、派遣を後押ししてくれた両親、千葉市交流協会の皆様、そして引率者、派遣生のみんなに感謝申し上げます。ありがとうございました。

Through the 2weeks

Hinako Koike

I felt and learned many things through this project. It was first time for me to stay in North Vancouver. I experienced a lot of things I would not experience that if I had not been to North Vancouver. I could know my English skills. In Japan we hardly have a chance to talk with a native speaker. So this project was a good chance. Now I know that I have to study English especially listening. It was worth an experience that I realize about that. Since I've realized my English is not enough, I want to study more and more. In addition I also come to have a wider view. In Canada, I met vegan. I was surprised that woman as young as me was a vegan. I thought it was great that she already had her own opinion toward animals.

Before going to Canada I felt inferiority complex. It was because I compared myself with others. However Canadian people value their personalities. It taught me that comparing with others is not necessarily. I want be like Canadian and value myself.

2 weeks were very exciting. I experienced wonderful things. In Canada there is a long summer vacation without club activities. Most students seem to enjoy summer vacation by camping, traveling, studying and so on.

My host sister is active and likes nature. So we went to various spots such as hiking and the sea. I also went to mountains so many times in Canada. I exercised extremely. And I think the nature in Canada is far bigger than that in Japan.

I think my host sister has a high quality life. She slept about 8 or 9 hours a day and she said that she studied 3 or 4 hours a day. So In Canada I slept a lot. However before going to Canada, I slept only 6 hours each day. I could change my life rhythm though 2 weeks. Now I sleep more than 7 hours a day. So I hardly sleep in classes at school. And she loved singing a song with ukulele. I sang some songs with her. I enjoyed that very much. And now, I started playing ukulele.

Through 2 weeks I found out good point about Japan, for example a bath. There was not a Japanese style bath room. So I missed it in Canada. I also thought Japanese train is good. In Chiba there are many train lines, monorails and buses. However in Canada, host mother always drove. She took me many spots by car. It is not convenient for people who cannot drive that there is no train.

I experienced so many things. I changed my views and I have new way of thinking. And I made Canadian great friends. North Vancouver and Japan will keep relationships. I am glad I am in the history of the relationship between two cities.

Finally thanks for CCIA, my parents, Lions Club, chaperons, and students. Thank you for everything.

カナダ滞在の感想

田嶋 鈴太郎

今回の二週間のノースバンクーバー渡航では普段では体験できない事や今後の自分の人生の糧になるようなとても良い経験ができました。

渡航前にはカナダという自分の全く知らない場所での生活に慣れるのか、上手く英語が話せて通じるかなどの不安なことが多くありました。その不安を少しでもなくそうとカナダやノースバンクーバーの事を調べたり、ホストシスターと多く連絡を取ったりしました。

それでも異国の地に行くことは今まであまり経験したことがなかったので緊張と不安がありました。

そして長時間の飛行機に乗りカナダに着きホストファミリーと会い挨拶と雑談をしました。あまり英語が得意ではなかった自分にゆっくりわかりやすい英語を話し、優しく接してくれて不安というものが、その時はじめて和らぎました。カナダに着いて最初はホストファミリーの英語以外は全く聞き取れなく、お店の店員とのまともに話せず、ホストシスターが隣にいないと全く何も進まない状況でした。ホストシスターに簡単に説明してもらい、だんだんその場の状況でどのような単語を言っているのか、どんなことを尋ねられているのかがわかってきて、慣れてきてからは店で注文や店員と会話をすることができたのですごく良かったです。

カナダに着いてからは毎日プランが立てられており、カナダの観光名所や日本であまり体験しない事などができました。その中でもカナダは自然豊かで山などが多いのでゴンドラやスキーリフトなどに乗り、高所に行くことが多かったのが印象深いです。自分は高所恐怖症なので高いところが苦手で、最初は行きたくはありませんでしたが、何度も行くことにより慣れていき少し克服したような気がしました。

今回の青少年交流事業は自分にとって、とてもいい体験であり、苦手なことを克服できたとても充実した経験でした。そして何より一番良かったこと、嬉しい事はカナダ人の友達ができたことです。このことは何事にも代えられない事です。

青少年交流事業という多くの学生が経験できないことをするチャンスをいただき本当に感謝しています。有難うございました。

North Vancouver Trip

Rintaro Tashima

This two weeks trip for North Vancouver city was a great experience for me. I had several things in this trip which I have never experienced before. I believe it must cause good effect for my future.

I had many anxiety about this trip before going to Canada, such as if I can speak English well, Canadian can understand my English, and if I get used to the life in Canada. I researched on the internet about Canada and North Vancouver, and I had a lot of contact with host sister to eliminate my anxiety. But I was nervous and I had anxiety because I haven't been to abroad so much.

I met my host family after long flight to Canada, I greeted and talked with them. My host family talked me slowly and gently. That had removed my anxiety. After some time I arrived in Canada, I could only understand English which my host family spoke. Also I needed some help from host sister in the store. And my host sister explained many things sincerely, I had finally been able to understand what my host sister and store clerk said. This was good experience for me.

We went to several famous places like Whistler and Grouse Mountain, and we did several activities I have never experienced. Going to higher places by gondola and lift was very much impressing for me. I didn't like going high places, it was so scary. But I overcame a little, because of very beautiful sceneries.

This program was very good experience for me. I challenged several things and overcame some things that I was not good at. And the best thing through this trip was making Canadian friends. This made me happy.

Thank you very much for giving me a good opportunity which a few students can experience. Again, thank you for everything.

真の国際人

横地 夏海

初めに、私がかげがえのない 16 日間を過ごすことができたのは、ホストファミリーをはじめ、千葉市国際交流協会の皆様、千葉中央、ノースショアライオンズクラブの方、そして滞在を共にした派遣生、引率者の皆のお陰です。本当にありがとうございました。

私は英語が好きで、二度目となる海外滞在で精一杯英語力を磨いて来ようと思い、派遣が決まった時から英語にかける時間を増やした。派遣前、英語が話したくてたまらず、カナダでは一切日本語を話さない、カナディアンになるぞ、という意気だった。実際に、滞在期間のほぼ毎日ホストファミリーと行動を共にしていたため、日記に英語で書けないことを日本語で書く以外、ほとんど英語のみを使って過ごしていた。さらに、カナダでの時間をできるだけ自分のものにしたい、と思ったため、6 時起床、英単語などの勉強、8 時にホストが起床し朝食、～21 時休む暇なく英会話、その後自分の部屋に入り荷物整理、シャワー、その日の日記を完成させ、気付いたら 26 時を回っていて就寝、というような生活を送っていた。使えば使うほど英語が伝わるようになることが嬉しく、あれ、日本語が出てこないな、と感じられるほど英語漬けになることができたので、20 時間覚醒した充実した日々に後悔はない。

しかし驚いたことに、滞在 6 日目、急に日本語が恋しくなってしまったのだ。その日の日記の 8 割を日本語が占めており、異国での疲れが出始めた時だった。その日、私は派遣生と日本語で話すことが多く、振り返ればカナディアンを自分から遠ざけてしまっていた。広いカナダの中で、日本語が通じる仲間はたったの 5 人。本当に、急に世界が小さくなった気がした。一度気を抜いてしまうと周りの英語が右から左に流れていく。自分の受け取れる情報量がほとんどなくなってしまった。一方良い面もあり、リラックスでき翌日から再びカナディアンの仮面を被れた。また、フェアウェルパーティーの出し物について秘密なことを堂々と打ち合わせるのに日本語は役立った。まるで合言葉のように。

今まで、私が英語圏の人間なら生まれた時から苦労せずに“グローバルな人間”だったのに、と思ったのは一度ではなかった。しかしこの時初めて、世界規模ではごく少数の使い手しかいない日本語を母国語にもって、良かったなと感じた。

このご時世、日本語しか使えなかったら、の状況を私は 6 日目に経験することができた。勿論国内にいれば不便さの欠片もないのだが、一步海の外に踏み出した時に周りとの壁ができてしまう、情報についていけない、これでは楽しく生きていけないと思う。国外には未知に溢れており、毎日新たなことに触れたこの 16 日間は本当に有意義だった。だから私はもっと世界を探求したい。真の国際人になりたい。そのためには、親近者との合言葉に頼らず英語を学ぼうと思わざるにはいられなかった。

A genuine cosmopolitan

Natsumi Yokochi

First of all, I really appreciate all who helped me; host families, CCIA, Chiba central Lions, North Shore Lions, my four friends and a chaperon. Thanks to you, I spent fantastic 16 days that nothing can replace them.

Because I wanted to improve my English skill during my stay in North Vancouver, since I have become this youth exchange student, I deliberately studied English much more.

Before I visited there, I was so eager to talk with Canadian that I decided to try not to speak Japanese at all, and to be with Canadians.

In fact, I spent with my host family all those days so I rarely used Japanese except writing in Japanese which were too difficult to illustrate in English in diary. Since I wanted to use the time in Canada effectively as much as I could, here are how I lived there; got up at 6, learned English words, grammar and so on, ate breakfast with my host family at 8, spoke English until 21, went to my room and organized my stuffs, took a shower, wrote the diary, and usually it was already 2 a.m.!, and went to bed. It was my pleasure that the more I used English, the better my English skill became. I immerse myself in English that I could not find what I should say in Japanese immediately. I never regret those full days that I woke up for 20 hours.

Surprisingly, I felt missing Japan on the 6th day, maybe I was getting tired. On the day, 80 percent of my diary were written in Japanese. And I talked to Japanese friends a lot but to a few Canadians. I myself avoided Canadians! There were only 5 people whom I could tell my mind in the spacious Canada. At that time, I felt that the world got fairly smaller. Once I let my mind drift, I lost my concentration to hear and understand what Canadian were saying. The amount of information I could catch became very few. On the other hand, there was a good aspect: I got relaxed so that I could store enough energy to get through in the heavy life from the next day, and I found Japanese was so convenient to prepare for the farewell party, what we didn't want Canadian to hear. I felt as Japanese were the password between us 5.

There were many times that I wished I would have been born in the country where people use English as their first language, because then I wouldn't have to have hard time to learn English. However, I first became to love Japanese. I was lucky to experience the situation how I was if I couldn't speak nor use English. Although I have no problem when I am in Japan, but when I was not, I think I couldn't work well. I barely know out of Japan so I eager to explore foreign countries. Furthermore, I want to be a genuine cosmopolitan! Therefore, in this youth exchange program, I couldn't help but found that learning English is necessary.

自立への道

松藤 真子

私は今回のホームステイで、自分がどれだけ周りに頼って、甘えてきたのだろうという事をとて実感することができました。

ノースバンクーバー滞在中は毎日様々なアクティビティが催され、忙しく、とても充実した16日間でした。それは1ヶ月以上にも感じるほどの濃い毎日でした。

ノースバンクーバーは千葉市にはない大きな山々や綺麗な海、そして大きな客船などをよく見かけ、豊かな自然に囲まれた綺麗な場所でした。日々のアクティビティも、そういった自然に親しむものが多かったと思います。

初めてのホームステイにおいては、同年代であるホストシスターの自立した行動にとても驚かされました。私のホストファミリーのハンナは周りをすごくよく見て行動する女の子で、お母さんが仕事をしていて忙しかった為、朝食やお弁当などの食事は全てハンナが準備をしてくれました。日本の私の家では、全部母が料理を作ってくれるので、同じくらいの年なのに1人でご飯が作れるのはすごいなと思いました。

日々の英語に関しては、理解するには大変苦労しました。スティーブストンに行った時などにガイドさんが場所や物についての説明をして下さったのですが、英語が流暢すぎて、説明が聞き取れないこともありました。けれど、家に帰ってからハンナが携帯に説明をメモしてきてくれて、私ができる英語でゆっくり説明し直してくれたため、しっかりと理解をすることができました。

Free dayは、カナダの生徒の中に2人ヴィーガンのメンバーがいたため、シーバスに乗ってバンクーバーのガスタウンにある「meet」というヴィーガンのためのレストランに連れて行ってもらうことができました。行く前は、ヴィーガンという言葉の意味もきちんと理解していなかったし、動物由来の物を使っていない食物とは何があるのだろうと想像もつきませんでした。きっと味付けの薄いメニューや野菜などのメニューが大半かと思っていましたが、お店のメニューには、色々な種類のハンバーガーが載っていて驚きました。私は一番気になったメインバーガーというものを注文してみました。出てきたハンバーガーは、ボリュームがあり、真ん中にとても分厚いパティが挟まれていました。実際の味は、お肉そのものと思うほどしっかりと味がついていて美味しかったです。自分の生活において必要であれば、家族とは違う食事のスタイルをとる、カナダの高校生は自分を持っていて素敵だなと感じました。

滞在中に「Japanese only day」があり、日本人の派遣生達や引率者の方とゆっくりと日本語で会話をする時間があつたことは、しばしの休息といった気分では有難かつたです。お寿司もごちそうになり、久しぶりにリラックスした1日でした。

たった16日間の滞在でしたが、初めて体験することや自分の地元では味わうことのできない自然と環境の中で過ごすことができ、とても楽しむことができました。また、カナダのホストシスター達の行動を見て、今の自分にも将来の自分にも喝を入れられるとても良い機会となりました。

私はまだ将来の進路や夢、やりたいことなどは決まっていません。ですが、このたった一回の派遣生としてカナダへ行かせて頂いた経験を通して、今まで自分はどれだけ人に甘えて、頼って、人に合わせてきたのだろうと気づくことができました。今回見つけた自分の改善点とノースバンクーバーでの経験を生かして、今後の自分の将来や進路、目標値などをしっかりと自分の意思を持って定めていきたいと思ひます。

The road to independence

Mako Matsufuji

I was able to realize that how much I relied on people around me through the stay of the 2 weeks in Canada. While I was staying in Canada, I was busy for many activities every day, so that I could have spent a very fulfilling 16 days. I feel like I had been there for more than a month. In North Vancouver, I often saw many mountains, beautiful seas and big cargo ships that I don't often get to see in my city, Chiba. Most activities we did were often get commune with the beautiful nature.

In my first time of the homestay in foreign country, I was very surprised at the host sister's independent actions. Hanna, my host sister was a girl who was always aware of what was going on around her. When her mother was busy, Hanna cooked all the dishes, such as breakfast, lunch and sometimes dinner for everybody. In my home in Japan my mother cooks all the dishes so I was very impressed with Hanna.

Regarding my English listening, it was very difficult to understand what everybody was talking. When I went to Steveston, the guide was talking about places and things very fast and fluently and I could not catch the explanation. However, since I returned home, Hannah explained me with the mobile phone notes slowly and in simple English, so I understood a lot.

On "Free day" I went to a restaurant for Vegan named "meet" in Vancouver's gas town because there were two vegans among Canadian students. Before I went there I could not understand what vegan means so never could have imagined what kind of foods they have in restaurant not using animal-derived ingredients. I thought that many dishes of vegetables will come out, so I was surprised to see the various hamburgers were on the menu of the store. I ordered the main burger. The hamburger was so big and there was a very thick patty in the middle. I was surprised at the taste of patty which was like meat. Girls in Canada choose different eating style with the family, if necessary. That was very wonderful I thought.

On "Japanese only day", I was able to relax, because I could talk with Japanese members in Japanese. Eating sushi made me very happy. I was able to experience many things for the first time, even in the environment where I couldn't be in, so I enjoyed it very much.

This was a very good opportunity for me to see the actions of host sisters which encourages me now and the future. I have not decided my future dreams and goals yet. I was able to review myself with only 16 days of experience. I hope to take advantage of my improved points through the experiences in North Vancouver and decide my future dreams and goals with own will.

優しさに触れた日々

小嶋 悠太

まずは千葉市国際協会の方々や、日本とカナダのライオンズクラブの方々、ホストファミリーの方々、また自分の両親、協力して頂いた学校の先生など、多くの方に感謝申し上げます。おかげさまで日本に居るだけでは得られない非常に貴重な経験をし、様々なことを学ぶことができました。

ノースバンクーバー市での二週間はまるで幼いころのように一日一日がとても長く感じられました。カナダに着いたばかりの時は、学校で行われているリスニングテストよりも2倍程度速い英語や、日本の文化との大きな違いなどにやや戸惑ってしまいましたが、現地の方々は私たち派遣生達に対して非常にフレンドリーに接してくれたので、すぐに毎日快適に過ごすことができるようになりました。

確かに初めの数日間こそ速い英語を聞き取ることはできませんでしたが、カナダでの生活にある程度慣れてくるとホームシスターの配慮もあってか私は日常会話程度の英語なら聞き取れるようになりました。そして一週間ほど経つと、聞き取るだけでなく自分から話しかけたりジョークを言ったりもできるようになりました。日々自分の成長を感じられ、毎日がとても充実していました。

滞在した中で、最も印象に残ったのはウィスラーの山へ登るリフトの上から見た絶景です。下を見ると雪解け水が小さな小川を作り、その周りを囲むようにピンク色の花々が咲いていて、上を見ると空気の澄んだ空と雪に覆われた山がきれいな景色を作り出していました。その景色は今でも忘れられません。

今度は、今年カナダの皆様にしていただいた様に自分たちが感謝の気持ちを持って、積極的に話しかけることで少しでも早く派遣生の緊張を解けるように努めていきたいです。また、来年は受験期に入りますが、大学受験の前に速いスピードの生きた英語に触れることで自分の苦手なリスニング問題の対策が十分にできるため、非常に嬉しく思います。二年連続でこんな経験をさせていただけることを、本当に感謝しています。

The day when I felt the growth

Yuta Kojima

First of all, I would like to thank a lot of people from Chiba City International Association, Japan and Canada Lions club people, host family members, my parents, school teachers who cooperated. I was able to learn various things by having very valuable experiences that I cannot obtain by just being in Japan.

During my two weeks in North Vancouver City, a day felt very long as I felt when I was a child. When I first arrived in Canada, I was a little puzzled by English which is twice as fast as the listening test at school, and the big differences from Japanese culture, but the local people was very friendly to me, so I could adjust to the life and become feeling comfortable right away.

I could not listen to fast English in the first few days, but as I got used to Canadian life to some extent, thanks to home sister consideration I became to be able to catch English conversation. And after about a week passed, I could not only understand but also speak to local people, even telling jokes. I was able to feel my own growth every day and was very fulfilling.

The most impressive thing during my stay was the spectacular view from the gondola that took us to the top of Whistler Mountain. Looking down, the snow melting water made a small stream, and pink flowers were blooming, which surrounded the stream. In addition the clear sky and the mountains covered with snow have created a beautiful view. The scenery was unforgettable even now.

To express my feeling of gratitude, when I will welcome Canadian students next year I would like to try my best to make them relax by actively speaking to them as they have done to us this year. Also, I will take the university entrance exam next year and I am very glad to have opportunities to practice my hearing with native English speakers like them before taking the university exam. I really do appreciate to have this year and next year's experiences.

引率者としての姉妹都市滞在

引率者 小野 沙織

引率者としてノースバンクーバーに滞在することが決まり、新たなことに挑戦できることの楽しい気持ちであると共に、出発が近づくにつれ、どのようにしたらいいのか、自分に引率者という役割が果たせるのかという不安も大きくなっていました。色々考える中で、私にできることは特別なことをしようとするのではなく、普段の仕事でも同じように、相手のこと、今回は引率者として派遣生のことを1番に考えるのはもちろん、同じ目線に立って考えること、そして自分自身も楽しむことだと思いました。派遣生が困っていそうだな、これから困りそうだなという時に、前もって、ホストファミリーであり、昨年の引率者であるターニャさんに相談し、また、小さなことでもその時々状況について話をするようにしていました。話をする中で、カナダの高校生達にアドバイスをしてくれることもあり、私の力では難しいことも、事が大きくなる前に解決できたこともあったのではないかと思います。本当に感謝しています。

実際にノースバンクーバー市で過ごす中で、自然や人の温かさに触れ、私にとっても貴重な経験となった2週間でした。ホストファミリーの方々は本当に優しく、私達のことを常に考え、向き合ってくださいました。文化や生活習慣、言葉は違いますが、コミュニケーションをとろうと、私達に寄り添い、私達を理解しようとしてくれていました。コミュニケーションをとる上で大切なことは、伝えようとする気持ちや理解しようとする気持ちだと思います。人と人が触れ合う中で得られるものはたくさんあり、それを私の周りの人たちや、今後私が触れ合う人たちに伝えていけたらと思います。

また、このような良い機会を得られたので、この滞在期間中に、カナダの幼児環境について調べてみようと思いました。出発前にターニャさんに連絡をし、その旨を伝えておき、またお会いした時にまた再度研究内容について確認しました。すると、私のためにご自身の働いているチャイルドケアや、以前働いていたチャイルドケアに連絡をし、訪問する機会を設けてくれよう働きかけてくれ、様々な人に声を掛け、2か所のチャイルドケアに訪問することができました。海外からの訪問者である私のことを、どちらの施設も温かく迎えて下さり、質問や疑問に答えて下さいました。人と人の繋がりからこのような訪問に至り、カナダの方々の暖かい人柄を改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいでした。千葉市で私が働いている保育所と共通する点もあれば、もちろん異なる点もあり、考えさせられることもありました。日本ではない国の幼児施設を訪問でき、実際に見学できたことで、視野も広がり、良い勉強となり、とても良い刺激となりました。

2週間という期間は、本当にあつという間でした。ノースバンクーバーに滞在中、自

然をたくさん感じ、出会った人々の温かさに触れ、様々な経験ができた実り多き日々でした。この経験を多くの人に伝えていくこと、また自分のできることを探して貢献していくことがこれからの私の使命だと考えております。今回、この青少年交流事業に参加させていただけたことに感謝し、今後の私の糧となるよう精進していきたいと思っております。

最後に、このような機会を与えて下さった千葉市交際交流協会の皆様、千葉中央ライオンズクラブの皆様、ノースバンクーバーにて私達の面倒を見て下さり様々な経験をさせていただいたジョージさん、ノースショアライオンズの皆様、5人のカナダ人高校生と2週間受け入れて下さったホストファミリーの皆様、そして昨年度カナダ人引率者でホストファミリーのターニャさんとそのご家族、出会ったすべての方々に感謝を申し上げます。

Staying in a sister city as a Chaperone

Saori Ono

It was a pleasure to stay in North Vancouver as a chaperone and being able to challenge new things. I worried more about how I could play a role as a chaperone as the departure approached. As I was thinking by myself, I came to a conclusion that what I can do is not trying to do anything special same as what I do at work, to think about students first, looking at things from the same point of view as students, and I should enjoy myself. When students seemed to be in trouble or would have a trouble later, I talked to my host and former chaperone from last year, Ms. Tanya. I explained about the circumstances of each occasion even for small things. By informing her, she gave advice to Canadian students which resulted in solving small problems before they got big. Thank you very much, Tanya.

It was a precious experience for me during two weeks I spent in North Vancouver City. I could touch the warmth of people and be in nature. The host families were really kind and they always thought about us. Culture, lifestyle, and language are different, but they tried to understand us in order to communicate with us. I think what is important in communication is to have a will to try to tell something and to try to understand. I've learned that there are lots of things that people can acquire by getting in touch with people, and I think I could tell people around me and those who I will meet in the future.

Also, as I got such a good opportunity to stay in Canada for 2 weeks, I've decided to look into childcare facilities in Canada. I contacted Ms. Tanya before departure and I told her what I wanted to do the research about. Thanks to Tanya, she contacted the childcare that she is working for and the childcare she was working in the past. She also asked other people around and set up 2 appointments to visit the facilities for me. Both facilities warmly welcomed me, who is a visitor from overseas, and answered my questions sincerely. It has become a reality with the connection with people to have such opportunities. I felt a warm personality of Canadian people again and I was full of gratitude. There were points that were in common and also different between nursery schools in Canada and where I work. I have gained new knowledge and obtained expanded field of vision by visiting childcare facilities in another country, which was also a good incentive for me.

It was truly a quick two weeks. While staying in North Vancouver, I felt a lot of nature, touched the warmth of the people I met, and experienced a lot of things. What I can do from now on is to pass down these experiences to many people and look for what I can contribute to the society. I am grateful that I could participate in this youth exchange program, and I would like to make this opportunity beneficial in the future.

Finally, I'd like to appreciate to Chiba City International Association who gave me such opportunities, Chiba Central Lions Club, the North Shore Lions, especially Mr. George who looked after us through various experiences at North Vancouver, five Canadian students, and host families who accepted us for two weeks, Ms. Tanya who was Canadian chaperone last year and all the people I met in Canada. Thank you very much.

5. 記録写真（思い出の写真）

(1) 小池 日向子



フェアウェルパーティの最後
ホストシスターのソフィーと



シーサファリのボートにのったところこの
あと海にでて、速くて激しいボートの
ツアーが始まる



ライオンズデイに訪れた鮭の養殖場自然
がきれいだった



ウィスラー旅行1日目の夕食後
みんなでエマを持ち上げた



BBQ、英語で伝言ゲームをした



バンクーバーの聖火台、派遣生と
ジョージのうで

(2) 田嶋 鈴太郎



昼食時の集合写真



ホストファミリーとの写真



市長と面会



ディープコーブのビーチ



ナイトマーケット



お別れパーティー

(3) 横地 夏海



ホストシスター、Emma と @whistler

カナダ人は体重を公開することに違和感はないようで、私もお互いに教え合うことでポンドとキログラムの換算を知った



Park Royalという日本のアウトレットのようなところ。やはり空港に近い。高級ブランドが安くなっているということで、みんな興奮見て回るだけでも楽しかった



日本食を披露した時（わらびもち）
家族と引率者みんな揃った



Georgeとテニス。コートは日本と変わらない。ボールを置いてゲームカウントをするというのが新鮮だった



イタリアンのサーモン
一番おいしかった最高級のsakai salmon



@Grouse Mt. 絶景！with Emma

(4) 松藤 真子



全員でスカイゴンドラに乗りに行った時にあったハンモックでの写真



ホストファミリーとキャンプに行った時のキャンプ場での写真



エマとハンナと夏海先輩と朝早くからバンクーバーを見渡せる山へハイキング



Farewell party での集合写真



家に帰ってから携帯の加工アプリで詰め合わせた写真
Farewell partyで他のホストシスター達とゆめかさんとマックスと撮った



ウィスラーに行った時の橋での写真
(ハンナ、小嶋先輩、日向子先輩、エマ、ナイヤ、ソフィー、夏海先輩、私)

(5) 小嶋 悠太



水族館での環境問題へ対する
呼びかけ



バンクーバーの夕日



カナダのオリンピック村



ウィスラーの山の頂上でお菓子の袋
が気圧で膨らんでいた時の写真



山の頂上までのリフトから見た
湖と花



大きなつり橋

(6) 引率者 小野 沙織



Deep Cove にて



市長表敬訪問にて



ハイキング



ディナー



ホームパーティーにて



過去の引率者との食事会

平成30年度 青少年交流事業
ノースバンクーバー（派遣）報告書

発行 平成30年11月発行
編集・発行 公益財団法人千葉市国際交流協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港2-1
千葉中央コミュニティーセンター2階
TEL : 043-245-5750
FAX : 043-245-5751
URL : www.ccia-chiba.or.jp/